

令和5年度「こころと生活等に関するアンケート」について

1. 令和5年度「こころと生活等に関するアンケート」の児童生徒の結果について

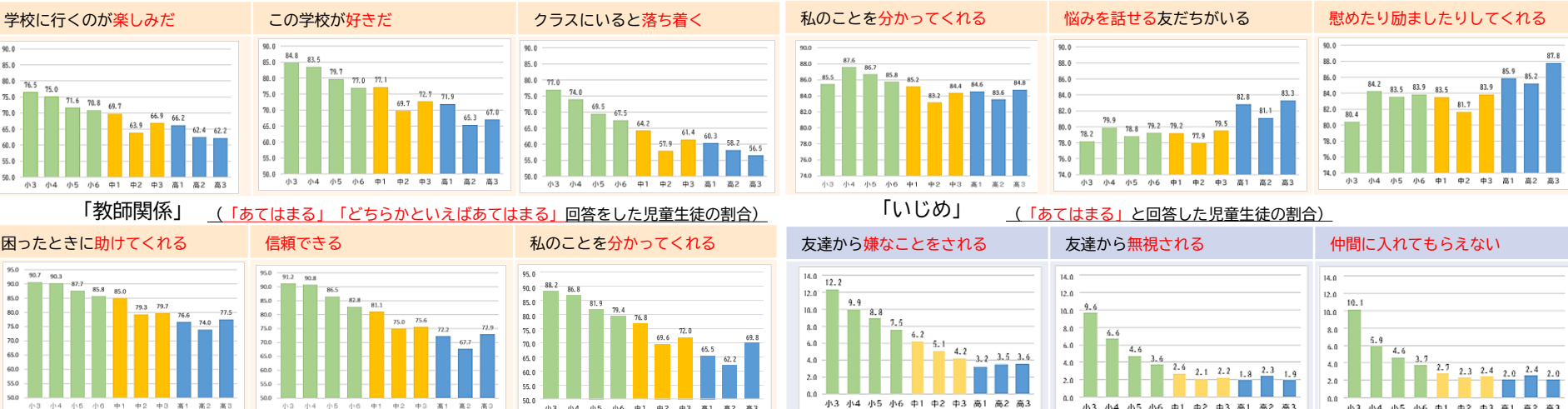
○調査参加学校数及び児童生徒数 ※校数は、アンケート参加校数。()内は、調査対象校数。人数は、アンケート回答者数。

9月実施悉皆調査(小学校第3学年以上の全ての児童生徒)		
小学校等	196校 (206校)	38,158人
中学校等	114校 (129校)	27,617人
高等学校等	42校 (70校)	18,557人

1月実施希望調査(小学校第1学年以上の児童生徒) *令和6年1月31日時点		
小学校等	85校 (206校)	14,560人
中学校等	48校 (129校)	8,135人
高等学校等	10校 (70校)	942人

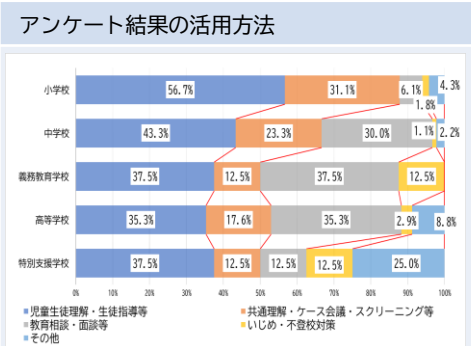
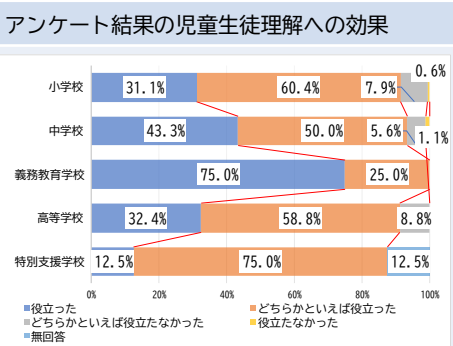
※小学校等には、義務教育学校前期課程、県立特別支援学校を含む。
 ※中学校等には、義務教育学校後期課程、県立特別支援学校を含む。
 ※高等学校等には、県立特別支援学校を含む。

○学校適応等に関する質問項目に対する児童生徒の回答結果について(9月実施公立学校アンケートより)
 「学校が好き」(「**あてはまる**」「**どちらかといえばあてはまる**」回答をした児童生徒の割合) 「友人関係」(「**あてはまる**」「**どちらかといえばあてはまる**」回答をした児童生徒の割合)



2. 令和5年度「こころと生活等に関するアンケート」9月実施校の管理職等に対する事後アンケート結果について

回答期間…令和5年12月1日～12月11日まで 回答校数…公立小学校162校、中学校85校、義務教育学校8校、高等学校30校、特別支援学校8校



アンケートを実施する上での課題

○システムはよく作られており、データも処理されたものをすぐに確認できる点はよいが、動作が重い。

○今年度、県教委の3つの課からアンケート依頼があったが、果たして1年間にそれだけのアンケートを行う必要があるのか疑問を感じる。また、アンケートの整理・分析に時間がかかり、教員にとって負担となっている。

アンケート実施のメリット

○子どもの状態が数値ではっきりと出るため、要配慮児童を担任が抱え込むことがない。また、教職員の共通理解が図りやすい。

○回答が数値化され、注意して見るべき点が強調されており、生徒の実態把握が容易である。

次年度に向けて

○各学校の実態に応じてアンケート結果を活用できるよう、実施時期や実施回数等を設定する。

○本アンケートの効果的な活用方法について学校において調査・研究を進める。

○本アンケートの趣旨や具体的な活用事例等について、説明会等で周知していく。